



BMW.WilliamsF1 Team

RaceMail

日本グランプリ 2004年10月8日～10日開催 - プレビュー

日本は来週行われる「2004年FIA フォーミュラ ワン世界選手権」シリーズ第17戦の開催国であり、これで残すところあと2戦となりました。BMWウィリアムズF1チームは、コンストラクターズ・タイトルの順位を上げるため、貴重なポイント獲得が期待されています。

日本グランプリのために今週ヘレス・デ・ラ・フロンテラで行われた準備作業は熾烈を極め、ラルフ・シューマッハ、マルク・ジュネ、オリビエ・ベレッタが責任を分担しながら作業を進めた結果、改良したマシンを日本に搬送できるようになりました。鈴鹿はドライバーにもエンジニアにも最高の精度が要求される容赦のないサーキットであり、F1世界選手権の中でも魅力的な一戦になることが期待されているサーキットでもあります。

ファン・パブロ・モントーヤ

昨年のレースで発生した不幸な技術上のトラブルは別として、鈴鹿サーキットでは常にまずまずの結果を出しています。鈴鹿は大好きなサーキットであり、鈴鹿ではドライビングを楽しんでいます。このサーキットは私たちのパッケージに合っているし、好成績を確信しています。中国ではポイントを得られて良かったですし、日本ではさらに高得点を獲得することを目標にしています。なぜならコンストラクターズ・タイトルでの私たちの順位をさらに確固たるものにすることが必要があるからです。

今週僕はテスト走行を行いませんでしたが、中国での一戦を終えた後ヨーロッパに戻り、英国でのPR活動に参加していました。シーズン最後の月は2つの長距離レースと複数のスポンサー・ディがあるので特に大変になりますが、残りのグランプリを楽しみにしています。

ラルフ・シューマッハ

鈴鹿はF1開催カレンダーの中で一番面白いサーキットのひとつだと僕は思います。だから、鈴鹿サーキットでレースができることを非常に楽しみにしています。もちろんイージーなコースではありません。このサーキットの高速セクターで良いパフォーマンスをマークするにはパーフェクトなクルマが必要になるので、私たちは素晴らしいセットアップを探し出す必要がありますが、僕の考えでは、その可能性は十分にあると思います。私たちは上海で、デビッド・クルサードとの無用なアクシデントがあったにもかかわらず、十分に競争力があることを証明しました。

僕は数年間日本で暮らしながらF3000に参戦し、1996年にはチャンピオンになりました。だから、日本には良い思い出があり、日本に戻れることを楽しみにしています。

Media contact:

WilliamsF1
Liam Clogger
Tel: +44 1235 7777 06
liam.clogger@williamsf1.com

Silvia Hoffer
Tel: +44 7977 275 838
silvia.hoffer@williamsf1.com

BMW
Jörg Kottmeier
Tel: +49 170 5666112
joerg.kottmeier@bmw.de

サム・マイケル (ウィリアムズF1テクニカル・ディレクター)

鈴鹿はF1開催カレンダーの中で最も素晴らしいサーキットのひとつですが、速いラップタイムを得るには、ドライバーもエンジニアも、すべてを完璧に仕上げることが要求されます。サーキットは高速コーナーからシケイン、ヘアピンまであらゆる条件を備えており、オーバーテイクできる絶好のチャンスがいくつかあります。高速安定性は非常に重要ですが、マシンのセットアップは通常、ドライバーが自信を持って「エセス」のようなコーナーを果敢に攻めることができるように低速セクションに合わせます。ヘアピンやシケインなどのコーナーでは、素晴らしいブレーキ性能も必要になります。



accenture

Allianz

Budweiser

Castrol

FedEx

Hamleys

NiQuitin CO

PETROBRAS

REUTERS



BMW.WilliamsF1 Team

RaceMail

私たちはスペインのヘレス・デ・ラ・フロンテラでテスト走行を重ね、ラルフ、マルク、オリビエは主としてセットアップとタイヤ コンパウンドに取り組んでいました。私たちは日本グランプリのために空力を少し変更しました。ミシュランは私たちのチャレンジを後押しするため、2種類の強力なタイヤを持ち込んできます。鈴鹿での戦略を考える場合、通常は正攻法ですが、タイヤ開発の状況が異なるため、昨シーズンの戦略が必ずしも役立つとは限らない可能性があります。

マリオ・タイセン (BMWモータースポーツ・ディレクター)

グランプリは残すところあと2戦となり、私たちにとって非常に困難だったシーズンが終わりを迎えます。私たちはウィンター テストにおける好結果に刺激されて大きな期待を胸に2004年のシーズンを迎えました。しかし、序盤戦で他のチームの方がはるかに前に進んでいたことをすぐに悟りました。また、今年は時々不運にも見舞われましたが、これは仕方のないことでした。

2005年度の準備作業は、すでにミュンヘンとグローヴで本格的に始まっていますが、差し当たり私たちは日本とブラジルで行われる残り2戦に集中し、有終の美を飾りたいと考えています。鈴鹿はドライバーやテクノロジーにとって極めて過酷なサーキットです。BMW P84エンジンにとって、鈴鹿は特別な負荷を受けやすいサーキットであり、超高速コーナーの130Rでオイル システムに掛かる横方向加速度は4Gにも達します。今までのところ、2004年度もBMW P84エンジンは強力で信頼性のあるユニットであることを証明してきましたし、日本で待ち受けている困難な状況にも対応できるものと考えています。

基本情報

- 鈴鹿市は、日本の本州の南東部に位置する人口184,000人の都市です。
- 鈴鹿はF1の中でも最もタフなサーキットのひとつと見なされており、タイトなスプーン コーナーから超高速コーナーの130Rまで、あらゆるタイプのコーナーで構成された8の字型のサーキットです。鈴鹿のレーシング コースは、ホンダの従業員のために建設されたテーマ パークである鈴鹿ランドの中央に位置しています。
- 2004年は、第18回日本グランプリが鈴鹿で開催されます。1987年に鈴鹿で第1回日本グランプリが開催される前、1976年と1977年の2回の日本グランプリは、富士山の麓で開催されました。1994年と1995年には、日本の英田サーキットでパシフィック グランプリが開催されました。
- 1987年の鈴鹿サーキットのこけら落としとして、ネルソン・ピケはウィリアムズを駆って彼自身3度目となるドライバーズ タイトル獲得を決め、フェラーリのゲルハルト・ベルガーが初勝利を収めました。1994年の日本グランプリは、ウィリアムズF1にとって記念すべき出来事でした。レースは激しい雨で中止となり、デーモン・ヒルがミハエル・シューマッハを破ったことで、得点表の上でデーモンとミハエルとが並んだため、タイトル争いはアデレードで行われる最終レースまで持ち越しになりました。1996年、デーモン・ヒルは鈴鹿でウィリアムズF1にとって3度目の勝利を獲得しました。
- 2000年に行われた日本グランプリのプラクティス セッションの間、F1パドックは鳥取県西部地震の余震で揺れました。

Media contact:

WilliamsF1
Liam Clogger
Tel: +44 1235 7777 06
liam.clogger@williamsf1.com

Silvia Hoffer
Tel: +44 7977 275 838
silvia.hoffer@williamsf1.com

BMW
Jörg Kottmeier
Tel: +49 170 5666112
joerg.kottmeier@bmw.de





BMW.WilliamsF1 Team

- 2003年、BMWウィリアムズF1チームはコンストラクターズ・タイトルを勝ち取ることができるわずかなチャンスを狙って鈴鹿に移動しました。しかし、良い結果が得られるというラルフ・シューマッハの予想は、予選中に雨が降り始め、有効なラップタイムを記録することができなくなった時点でかなり危うくなりました。結局、ラルフは19番グリッドからスタートしましたが、1分33秒408のファステスト ラップを叩き出し、12番手まで順位を上げました。彼のチームメイトであるファン・パブロ・モントーヤは、ドライ路面の予選を2位で通過しましたが、トップを走行していた9周目に油圧系のトラブルが発生し、リタイヤを余儀なくされました。
- ルーベンス・バリチェロは1分31秒713のラップ タイムでポール ポジションを獲得し、ポール・トゥ・ウィンで2003年日本グランプリのチャンピオンに輝き、フェラーリはコンストラクターズ タイトルを獲得しました。
- 鈴鹿は1周が5.807kmのコースで、レースは307.573km（53ラップ）で争われます。日本グランプリは、10月10日（日曜日）午後2時30分にスタートします。

	ファン・パブロ・モントーヤ #3	ラルフ・シューマッハ #4
生年月日	75/9/20 - ボゴタ (コロンビア)	75/6/30 - ヒュルト (独)
国籍	コロンビア	ドイツ
居住地	モンテカルロ (モナコ)	ザルツブルク (オーストリア)
配偶者	(妻) コニー	(妻) コーラ、(長男) ディビッド
身長	168 cm	178 cm
体重	72 kg	73 kg
F1デビュー	2001年 オーストラリアGP	1997年 オーストラリアGP
出走	66回	124回
ポールポジション	11回	5回
優勝	3回 (01年: イタリア、03年: モナコ/ドイツ)	6回 (01年: イタリア、カナダ、ドイツ、02年: マレーシア、03年: ヨーロッパ、フランス)
2004年獲得点数	46点 (総合6位)	12点 (総合11位)
総得点数	209点	247点
ファステスト・ラップ	10回	7回

Media contact:

WilliamsF1

Liam Clogger
Tel: +44 1235 7777 06
liam.clogger@williamsf1.com

Silvia Hoffer

Tel: +44 7977 275 838
silvia.hoffer@williamsf1.com

BMW

Jörg Kottmeier
Tel: +49 170 5666112
joerg.kottmeier@bmw.de



accenture





BMW.WilliamsF1 Team

RaceMail

2004年 戦績	ファン・パブロ・モンターヤ #3			ラルフ・シューマッハ #4		
	予選	決勝	得点	予選	決勝	得点
オーストラリアGP	3位	5位	4	8位	4位	5
マレーシアGP	4位	2位	8	7位	リタイア	-
バーレーンGP	3位	13位	-	4位	7位	2
サンマリノGP	3位	3位	6	5位	7位	2
スペインGP	2位	リタイア	-	6位	6位	3
モナコGP	10位 (9番グリッド)	4位	5	2位 (12番グリッド)	リタイア	-
ヨーロッパGP	8位	8位	1	9位	リタイア	-
カナダGP	4位	車両違反	-	1位	車両違反	-
アメリカGP	5位	失格	-	6位	事故	-
フランスGP	6位	8位	1	8位	10位*	-*
イギリスGP	8位 (7番グリッド)	5位	4	12位 (11番グリッド)	12位*	-*
ドイツGP	2位	5位	4	11位 (10番グリッド)	7位**	2**
ハンガリーGP	7位	4位	5	6位	7位**	2**
ベルギーGP	11位	リタイア	-	14位**	リタイア	-**
イタリアGP	2位	5位	4	8位**	7位*	2**
中国GP	11位 (10番グリッド)	5位	4	5位	リタイア	-

* = マルク・ジュネ #4

** = アントニオ・ピッツォニア #4

18戦中16戦が終了した時点で、BMWウィリアムズF1チームはコンストラクターズ・ポイントが64点となり、FIA F1コンストラクターズ・タイトル第4位につけています。

Media contact:

WilliamsF1

Liam Clogger
Tel: +44 1235 7777 06
liam.clogger@williamsf1.com

Silvia Hoffer

Tel: +44 7977 275 838
silvia.hoffer@williamsf1.com

BMW

Jörg Kottmeier
Tel: +49 170 5666112
joerg.kottmeier@bmw.de



accenture

